九州大学学術情報リポジトリ Kyushu University Institutional Repository

倉橋由美子におけるわが子を食らう母親: 「婚約」 を中心として

劉,苗苗 九州大学大学院比較社会文化学府 : 博士課程

https://doi.org/10.15017/1518293

出版情報: Comparatio. 18, pp. 50-61, 2014-12-28. 九州大学大学院比較社会文化学府比較文化研究会

バージョン: 権利関係:

劉苗苗

はじめに

う認識と深く関わっていると考えられる。また、倉橋は「婚約」(注 庭をつくるという形式にすべりこむことを意味する」(注一)とい う生殖の罠が待ちうけている。そして子どもを生むことは結局家 立場を強く訴えると同時に、母性への嫌悪を示す。妊娠を拒否す るはずの出来事を男性に体験させ、女性の「第二の性」としての 界』一九六〇年六月)において、倉橋は男が妊娠するという大胆 いずれも倉橋初期の「性関係のうちには不条理にも女の妊娠とい な発想を駆使し、男女関係において弱い立場にある女性が体験す しよう」とはっきりと妊娠中絶の意思を示す。また、「蛇」(『文学 を生むことができる」が、「わたしはそういうつもりはなく、処分 ることになる。「こどもが欲しい」という《労働者》に、「子ども と何度も交わり続けた結果として、女主人公「わたし」は妊娠す しても中絶するという主人公を何人も登場させている。 「パルタイ」(『明治大学新聞』|九六○年|月)では、《労働者》 倉橋由美子は初期作品の中で、妊娠を拒否する、あるいは妊娠 (『新潮』 一九六○年八月) という作品において、 男女関係が逆転し、男が妊娠する体質になるにせよ、 母親がわが 例えば、

> 例しかない。 なかで、母親がわが子を食べるモチーフが用いられるのはこの一なかで、母親がわが子を食べるモチーフが用いられるのはこの一子を食べるというグロテスクな話を登場させている。倉橋作品の

そのうえ、Kは喀血が進行したため、ミレナに病院に入れられる。 くため、Kは彼女のあとを追い、 る。 約の件に同意する。それだけでなく、「F・Bさんをあいしてい KはF・Bと会った覚えがないにも関わらず、持ちかけられた婚 勤めのKのところに、F・Bの代理人と自称する女がやってくる。 粗筋は以下のとおりである。ある十一月の小雨の降る午後、役所 新潮社から刊行された『婚約』と題された単行本に収録された。 にもない場所」(『新潮』一九六一年一月号)という二作とともに、 に「鷲になった少年」(『週刊朝日別冊』一九六一年二月号)「どこ の伝記的事実をもとに書いた作品である。 ましたわ。」と真実を告げられ、 そして入院先に訪ねてくるF・Bに子供を「処分しました。食べ 分の作品を翻訳すると申し入れるミレナに出会う。Kが別荘を訪 行するに当たって、前提条件となる保証金の交換が大きな壁とな 意に達する。しかし、Kが失業することにより、婚約手続きを実 F・Bと出会い、お互いに婚約(契約)について条件を述べ、合 ることを伝えてほしいと代理人に何度も頼む。後の出版記念会で 弁解するにも関わらず、F・Bの理解を得ることができない。 婚約手続きがうまくいかず、妊娠したF・Bからの誤解を解 -婚約」は一九六○年『新潮』の八月号に発表された、 死を迎える 別荘行きを決める。その途中自 翌年の一九六一年二月 カフカ

妊娠しても中絶するという選択肢もあるにも関わらず、倉橋は

性を検討しながら、その食べる行為の背後にある倉橋の真意を解上、わが子を食べる親のイメージの受容についていくつかの可能解きほぐすために、F・Bがわが子を食べる経緯を明らかにした年チーフを通して倉橋は何を意図しているのか。こうした疑問をがわが子を食べるモチーフをどこから取り入れたのか、またそのが婚約」において、なぜF・Bにわが子を食べさせたのか、母親

、母親がわが子を食べる経緯

読したい。

二人の間に以下のような会話が交わされる。 の飼育をKにおしつけ、自分は二階に閉じこもる。その後ある日、なし、別荘に向かう。自分の妊娠が分かった後、Kに手紙を出し、が婚約手続きを積極的に進めておらず、自分を裏切っていると見が婚約手続きを積極的に進めておらず、自分を裏切っていると見がの間に以下のような会話が交わされる。

をごらんになってもわかるでしょ?ほら」かっこうをしているんですもの。こうして鉤をつかんでいる手「だめよ、だめですわ、あがってきては。いまとても恐ろしい

んなふうだった。 「まったくだ。鬼の手みたいだ」とKは叫んだが、じっさいそ

「それにお産をしたところなのよ」

おお、ぼくの子どもを……?」

「いいえ、猫ですわ。おそらくこれが最後のお産でしょうね。

ずいぶん苦しそうですわ」

「だいじょうぶですか?」

「ええ。すっかり食べちゃったのよ。子どもも胎盤も」(「婚

約」一七二頁)

されるのは、Kが病院に入れられた後のことである。のは猫とした。Kはそれを少しも疑わなかった。その真実が明か当初F・BはKに事実を明かさず、子も胎盤もすっかり食べた

「あなたにお産のこと、いわなかったかしら?」

痙攣をおこしていた。 ながらKはベッドのうえで海老のようにからだを曲げて大きな「おお、おもいだしましたよ。猫のお産のことですね」といい

七九頁)
ままだった。「わたしも猫とおなじようにしたのよ」(「婚約」一ままだった。「わたしも猫とおなじようにしたのよ」(「婚約」一「どうなさったの?」とF・Bはいったが部屋の中央に立った

引き換えに、世間復帰のきっかけを手に入れようとしているので実現すれば、ぼくにも世間へはいっていくための入場券が与えら「わたしと婚約してどうなさるおつもり?」というLの疑問に、でない証と見なし、自分への裏切りであると結論づける。また、下・Bは婚約手続きが順調に進まないことをKが婚約に前向き

に世間復帰をするために自分にしかけた罠だと思い込む。 そのため、 F ・BはKが自分を妊娠させたのは、 婚約せず

親が子を食べる行為の受容について

古来、東西の文学や絵画に同様のモチーフが見られる。 ない、「子どもを食べる」というモチーフについて考えてみたい。 婚約」に見られる子を食らう母親を論じる際には避けて通れ

わが子をくらうクロノス(サトゥルヌス)(ギリシア・ロ

らしと塩を蜂蜜いりの飲み物のなかに混ぜ、クロノスに飲ませ をひそかに育てた。ゼウスが成長すると、レアーからもらったか れた子のごとくに見せかけ、クロノスに呑むように与え、ゼウス レアーは怒って、ゼウスが生まれた時、石を襁褓でくるんで生ま ラノスの予言を恐れて、生まれた子を次々と呑みこんでしまった。 自分の息子の一人に主権を奪われるであろうというガイアとウー タロスに投じた。クロノスは姉のレアーを妻とした。 タルタロスに投入された者たちを連れ戻しながら、ふたたびタル 三)が父を去勢し、その支配権を奪い支配者となったが、さきに そそのかして父ウーラノスを襲わせた。そこで末子クロノス(注 プスたちをタルタロスへつきおとしたことを怒って、巨人たちを 呑み込んだ子供らを吐き出させた。(注四。傍線は引用者。) 大地母神ガイアはウーラノスが自分に反抗した息子キュクロ クロノスは

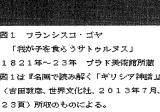
「我が子を食らうサトゥルヌス」(絵画作品

絵画作品にも、わが子を食べる主題が扱われ、「わが子を食らう

子供は食べられる直前で、

る。 サトゥルヌス」(スペイン画家、ゴヤ)と二つの名作が残されてい サトゥルヌス」(オランダ画家、ルーベンス)と「わが子を食らう の絵画からの影響が大きいと思われる。 の一点でもあるゴヤの作品が描かれたのが病により聴覚を失った 七七歳のときであり、それに先行する一六世紀のルーベンス 別荘の「聾者の家」の壁画として描いた一四枚の 「黒い絵」





ヤにも影響したと思われるルーベンスの同じ主題の絵では、 顔をしかめて必死にもがいている。こ のによる。

るものがあろう。
血、振り乱した髪やかっと見開いた錯乱状態の眼などは、鬼気迫腕が食べられてしまっており、そこからしたたり落ちる生々しいれに対しゴヤのサトゥルヌス(注五)では、子供はすでに頭や片れ

この二作はいずれも、ローマ神話に登場するサトゥルヌスが将来、自分の子に地位を奪われるという預言に恐れを抱き、五人の子を次々に呑みこんでいったという伝承をモチーフにしている。それに対して、「婚約」においては、F・BはKに復讐するため、わが子を食べるという極端な行動にはしったと考えるのが自然であろう。その復讐の原点となるのは、Kに子供を社会復帰への道思として利用されたくないという心理だと考えられる。何かに恐れを抱き、わが子を食べるという応ばしったと考えられる。何かに恐いを抱き、わが子を食べるという点においては、預言を恐れ、われを抱き、わが子を食べるという点においては、頂言を恐れ、われを抱き、わが子を食べるという点においては、頂言を恐れ、われを抱き、わが子を食べるという点においては、頂言を恐れ、われを抱き、わが子を食べるという点においては、野・BはKに復讐するため、石に対して、「婚約」におけるわが子を食らうクロノス(サトゥルヌス)から影響をうけた可能性が大を食らうクロノス(サトゥルヌス)から影響をうけた可能性が大きなというでは、ア・ローマ神話に登場するサトゥルヌスが将としている。

③ テーレウスとプロクネーとピロメーラー (ギリシア・ロ

一マ神話)

プロクネーが死んだと偽って、彼女を迎え、犯した。事情を知ったが、テーレウスはパンディーオーンの末娘ピロメーラーに恋し、にプロクネーを与えた。やがて二人のあいだにイテュスが生まれーキア王テーレウスの調停によって有利を得たので、テーレウスアテーナイ王パンディーオーンは、国境に関する紛争で、トラ

膳にそなえた」(注六)のである。 膳にそなえた」(注六)のである。 膳にそなえた」(注六)のである。 膳にそなえた」(注六)のである。 膳にそなえた」(注六)のである。 ・プロクネーが告げることができないように、その舌を切りとった。 ・のはかし彼女はピローメーラのために用意された花嫁衣装の模 なき、銅の大斧のなかで死体を煮て、帰ってきたテーレウスの食 なき、銅の大斧のなかで死体を煮て、帰ってきたテーレウスの食 なき、銅の大斧のなかで死体を煮て、帰ってきたテーレウスの食 をつけた。 との をして、復讐の方法を思いつく。「イテュスを殺してそのはらわたを なき、銅の大斧のなかで死体を煮て、帰ってきたテーレウスの食 なき、銅の大斧のなかで死体を煮て、帰ってきたテーレウスの食 をつけた。 との がき、銅の大斧のなかで死体を煮て、帰ってきたテーレウスの食 をつけた。 との にいる。 との にいる にいる。 との にいる。 との にいる。 との にいる。 との にいる。 との にいる。 との にいる。 との

ある。その復讐の場面は以下のように描かれている。ローマでかつて絶大なる権力を誇った武将タイタスの復讐悲劇でドロニカス』にも語られている。『タイタス・アンドロニカス』は、わが子を食べるモチーフはシェイクスピアの『タイタス・アン (シェイクスピア)

それをきさまらの血でこね合わせて練り粉にし、かき切ってやる、ラヴィニアは切り株の両手で知ってのとおりきさまらの罪の血をそれに受ける。盥をささえ、きさまらの罪の血をそれに受ける。盥をささえ、きさまらの罪の血をそれに受ける。とうく聞け、悪党め、おれなきさまらの喉笛をおれなこの残っている片手できさまらの喉笛をおりく聞け、悪党め、きさまらをどう料理してやる。タイタス ようく聞け、悪党め、きさまらをどう料理してやる。

これがあの女にたっぷり食わせてやるごちそうだ。(注七)大地のようにな。これがおれの招待した宴会だ、食わせてやる、自分が生んだものをのみこむあの淫婦に、きさまらの汚らわしいおふくろに、あの淫婦に、きさまらの汚られて二つのパイを作り、その練り粉でパイの皮をこさえ、その皮のなかに

よう。それに対して、前にも述べたが、「婚約」におけるF・Bがけるプロクネーが夫に自分の子供の肉を食べさせるという復讐方法の模倣とされる。また、その陰惨な復讐行為によって、タモラは我が子を貪り喰う母親となる。
シェイクスピアの『タイタス・アンドロニカス』はテーレウスは我が子を貪り喰う母親となる。

解釈するには、テーレウスとプロクネーとピロメーラーの話だけ解釈するには、テーレウスとプロクネーとピロメーラーの話だけな響を目的とする復讐物語と、「婚約」との類似性を見出すことがの話を代表とする復讐物語と、「婚約」との類似性を見出すことがの話を代表とする復讐物語と、「婚約」との類似性を見出すことがおう。それに対して、前にも述べたが、「婚約」におけるF・Bがよう。それに対して、前にも述べたが、「婚約」におけるF・Bがとプロクネーとピロメーラーの話を起源とする復讐物語とも言えとプロクネーとピロメーラーの話を起源とする復讐物語とも言えとプロクネーとピロメーラーの話だけ

では、解釈しきれない部分が残る。

》子を食らう餓鬼

田村正彦の「子を食らう餓鬼―西行の和歌と唱導―」によれば、田村正彦の「子を食らう餓鬼―西行の和歌と唱りなども考察の対象に入れ、「子を食らう餓鬼」といった」(注八)と指摘している。田村は前掲論において、西行の和歌と唱事家の言説を中心に考察し、餓鬼にも母親の心情があったことや記録史料なども考察の対象に入れ、「子を食らう餓鬼―を記録史料なども考察の対象に入れ、「子を食らう餓鬼―といった」(注八)と指摘している。

『タイタス・アンドロニカス』において、タイタスはタモラに、

また、子を食べるという行為は、子を食らう餓鬼に限ったもの また、子を食べるという行為は、子を食らう餓鬼に限ったもの また、子を食べるという行為は、子を食らう餓鬼に限ったもの また、子を食べるという行為は、子を食らう餓鬼に限ったもの また、子を食べるという行為は、子を食らう餓鬼に限ったもの また、子を食べるという行為は、子を食らう餓鬼に限ったもの また、子を食べるという行為は、子を食らう餓鬼に限ったもの また、子を食べるという行為は、子を食らう餓鬼に限ったもの

帰が顕著に読み取れる。初期は文壇の主流であるリアリズム文学動も大きな変貌を呈し、初期の西洋文学志向から日本古典への回倉橋由美子の関心を考慮すると、アメリカ留学を境目に創作活

が高いと考えられる。文学でなく、ギリシア・ローマ神話から素材を取り入れる可能性文学でなく、ギリシア・ローマ神話から素材を取り入れる可能性るから、「婚約」が執筆された当時の倉橋の関心を考えると、日本に反感を持ち、反リアリズムの文学こそ真の文学と叫ぶ倉橋であ

ーの話がともに影響したと考えるのが妥当であろう。 いままで述べてきたように、何かに恐れを抱き、わが子を食べるという点において、F・Bの行為は預言を恐れ、わが子を食り喰うのが母親である点や、復讐心理が働いてよカス』と似通っている。しかし、片方をもってF・Bの行為をニカス』と似通っている。しかし、片方をもってF・Bの行為をにサトゥルヌス)の話と、テーレウスとプロクネーとピロメーラの話がともに影響したと考えるのが妥当であろう。

二、なぜネコなのか?

、ネコというシンボルの象徴的意味

して、ネコは月の側面を表すことのほうが多いとされる。持つものとされる。しかし主に太陽の側面を表すライオンと比較徴と同じく、ネコも月の側面と太陽の側面という両義性を合わせ『イメージ・シンボル事典』によれば、他のすべての重要な象

びつける特徴がいくつかあり、まず、その目は暗闇の中で光るは、穀物の精としてネコの中に宿ることがある。月とネコを結[月の側面]1、北西ヨーロッパでは、(月の)豊饒の太女神

他の神々とともにオリュンポスからエジプトへ避難した出れる。そして月が欠けるにつれ細まって行く。ネコはネズミ(ペスト)を食べる。大っぴらに交尾することにより、月の女神の色と同様、ネコは白、茶、黒の色をもつ。[狐物語]に登場するネコは奇妙な去勢を受けた。死を俯瞰する月―ネコに登場するネコは奇妙な去勢を受けた。死を俯瞰する月―ネコに登場するネコは奇妙な去勢を受けた。死を俯瞰する月―ネコに登場するネコは奇妙な去勢を受けた。死を俯瞰する月―ネコに登場するネコは奇妙な去勢を受けた。死を俯瞰する月―ネコに登場するネコは奇妙な去勢を受けた。死を俯瞰する月―ネコに登場するネコは奇妙な去勢を受けた。死を俯瞰する月―ネコに登場するネコは奇妙な去勢を受けた。死を俯瞰する月―ネコに登場するネコは奇妙な去勢を受けた。死を俯瞰する月の女として、月の女神の化身となっている。2、処女である月の女として、月の女神の化身となっている。2、処女である月の女として、月の女神の化身となっている。2、処女である月の女神が大きないのである。

レス)の両者が動物の姿をとって現れたもの(ユング)。(注九)た。4、ヘビ、クマ、ワニと同じく、ネコはコレとその母(ケは、二匹のネコに戦車を引かせた。彼女も魔力をもつ女神だっは、二匹の家)もネコに姿を変えたが、彼女は魔力をもつ月の女としての姿)もネコに姿を変えたが、彼女は魔力をもつ月の女(オビディウス『転身物語』)。ヘカテ(乙女アルテミスの老婆(オビディウス『転身物語』)

こいら。おコと女性のイメージとの関係性を以下のように説明しおいて、ネコと女性のイメージとの関係性を以下のように説明しまた、ジャン=ポール・クレベールは『動物シンボル事典』に

月の象徴である猫は、エジプトにおいて、さまざまな信仰の

器を「牝猫」(chatte)という名で呼ぶ。 対象であった。(中略)キリスト教徒たちはどうかと言えば、彼対象であった。(中略)キリス派において既に、猫は女性の持つあらゆる魔性に関係づけられていた。猫は女であり、男は犬である、と彼らは言う。猫は女の本性、女の官能、女の優美、女の狡猾をすべて持っている。猫の毛が既に性の欲望を駆り立ての狡猾をすべて持っている。猫の毛が既に性の欲望を駆り立てるものだ。現代のフランス語はその伝統を引き継いで、女性性るものだ。現代のフランス語はその伝統を引き継いで、女性性るものだ。現代のフランス語はその伝統を引き継いで、女性性るものだ。現代のフランス語はその伝統を引き継いで、女性性の教育を関する。

猫はまた悪魔の化身とされた。(注一〇)けられていた。魔女が好んでよく猫(当然牝猫)に変身する。そればかりか、猫は民間信仰において早くから魔術と結び付

であろう。また、民間信仰において猫は悪魔のイメージを帯びて と強調している。女性を動物にたとえる場合、 ある」というグノーシス派の主張を紹介した上、 また魔女に仕えるものとして、神話に登場すると指摘される。 差し支えないであろう。さらに、 いることを考慮すると、女=猫=悪魔という図式は成り立っても れに対して『動物シンボル事典』では、「猫は女であり、男は犬で ることからヒントを得る可能性は高いと考えられる。 とを考えると、女性性器を表す chatte が「牝猫」を語源にしてい 『イメージ・シンボル事典』では、猫が月の女神の化身の一 狡猾をすべて持っているとされる猫が最初に浮かび上がる 倉橋は仏文科を専攻していたこ 女の本性、 猫を悪魔の化身 官能、 つ、

イ、 動物界における子動物を食べる親動物

なリスト(注一一)を作成している。の型を、さらに攻撃を誘発する刺激によって細分化し以下のようよる攻撃」と二種類に分けたうえ、「情動による攻撃」のさまざまョンソンは動物の攻撃性を「捕食性攻撃」と、「情動つまり感情に動物行動学者であるテンプル・グランディンとキャサリン・ジ

リスト1、「情動による攻撃」についての区分

① 積極的攻撃――支配性の攻撃、なわばり攻撃等

② 恐怖に駆られた攻撃―幼い子を守ろうとする母性による攻

撃等

3

痛みによる攻撃

受ける。 受ける。

間を襲う場合。 けないときに、かわりに家の中にいるべつの猫、あるいは人っちり攻撃がある。猫が、外にいる猫をみて興奮しても近づの いらだちによる、あるいはストレス性の攻撃―これにはとば

場合。⑥ 混合型の攻撃―たとえば、恐怖が積極的な攻撃と結びついた

⑦ 病気による攻撃

恐怖が攻撃につながる」(注一二)と指摘している。また、ストレのだ」「動物の母親は、赤ん坊の身が危険だと考えると恐怖を感じ、れ、「母性による攻撃は、本質的には、恐怖に駆り立てられているグランディンとジョンソンは母性による攻撃を恐怖の部類にい

上げている。 とげている。 という悲惨な話を取りめになりやすい」とし、その具体例として、「ボーダーコリーが自めになりやすい」とし、その具体例として、「ボーダーコリーが自なの子犬を全部たべてしまった」(注一三)という悲惨な話を取りない、適度におだやかな状態で暮らしている動と比べると攻撃を説明する時、「ストレスの高い状態で暮らしている動

恐怖による攻撃とストレス性の攻撃とを結びつけて考えることがわいる。しかし、本来恐怖に駆り立てられ、攻撃につながる母性の攻撃が外に向かうものである。ここでの恐怖は母親が赤ん坊性の攻撃が外に向かうものである。ここでの恐怖は母親が赤ん坊性の攻撃が外に向かうものである。ここでの恐怖は母親が赤ん坊は、わが子を食べる親猫はなぜその攻撃の矛先を外ではなく、うち(わが子)に向けるようになるのか。「ストレス性の攻撃」の例ち(わが子)に向けるようになるのか。「ストレス性の攻撃」の例ち(わが子)に向けるようになるのか。「ストレス性の攻撃」の例ち(わが子を食べる親猫を考えるにあたって、その可能性として、わが子を食べる親猫を考えるにあたって、その可能性として、

べる行為が成り立つ。 外に向けるはずの攻撃がわが子に向かうようになり、わが子を食わち、分離不安による恐怖が攻撃に繋がり、またストレスのため、撃とが結びついた混合型の攻撃と考えるのが妥当であろう。すな親猫がわが子を食べる行為は恐怖による攻撃とストレス性の攻

胎児との関係について、以下に述べるように、主体(母体)と四、食べる行為についての分析――他者との境界線と同一視

の過程を辿っていると考えられる。他者(胎児)との関係という枠組みの中で、疎外・分離と同一化

ア、 他者との境界線

降りてこなかった。で来たにもかかわらず、F・Bは二階に閉じこもったまま、終始「婚約」において、Kは妊娠したF・Bを追いかけて、別荘ま

製の梯子がKのまえにおろされた。(「婚約」一六八頁)して垂れさがっていた。そのとき、F・Bらしい顔がみえ、竹段はなかほどで折れて、上半分は骨折した脚みたいにぶらぶら「Kですよ」といい、かれは階段をかけあがろうとしたが、階「Kですよ」といい、かれは階段をかけあがろうとしたが、階

約」一七〇頁) ょうだい。豚や山羊だってあがってこないんですからね。」(「婚うほかありませんわ。この部屋には絶対にあがってこないでち「とにかく、あなたには下で家畜といっしょにくらしてもら

と見なし、他者に対する嫌悪感が赤裸々に描写されている。が妊娠した腹部をKに見せるシーンがあり、そこでは胎児を他者時に、Kとのつながりを絶つということでもある。また、F・B側で、ひたすら胎児と向き合うことになる。しかしそれはまた同この時点から、F・B自身は外界から隔てられ、内的世界の内

がでるまでよくごらんになるといいわ」たしは妊娠してしまったのよ。これがどんなことか、眼から汗た・Bはいきなりその服をめくりあげた。「あなたのためにわ

るのだった。(「婚約」一六九頁)た。それは呼吸のたびに、見苦しいほど露骨にせりあがってくに、それは呼吸のたびに、見苦しいほど露骨にせりあがってく縦横に走っている神聖とも猥雑とも言いようのない肉の塊を見 Kは、丸々と張りきった肉、しかも褐色の運河に似た条痕が

る。 る。 る。 でいる」、「見苦しいほど露骨にせりあがってくる」といった妊婦 といる」、「見苦しいほど露骨にせりあがってくる」といった妊婦 でいる」、「見苦しいほど露骨にせりあがってくる」といった妊婦

自己実現を図っていると見なす。 も己実現を図っていると見なす。 との婚約をしないまま、子が生まれてくることによって社会的 が婚約を延々と延ばすことから、F・BはKに対して不信感を が婚約を延々と延ばすことから、F・BはKに対して不信感を がとの婚約をしないまま、子が生まれてくることができる。 を結ぶことによって、社会復帰を図るKの姿を見ることができる。

あるため、主体と他者との境界線があいまいである。それが出産しかし、他者嫌悪といっても、他者が身体の一部である母胎に

していると考えられる。
していると考えられる。つまり子がその境界線を二度行き来れられ、境界線がなくなる。つまり子がその境界線を二度行き来し母親が子を食べるという行為によって、子がまた体内に取り入ることによって、あいまいな境界線もあいまいでなくなる。しかることによって、母胎にあった子が完全なる他者となる。このという行為を経て、母胎にあった子が完全なる他者となる。この

イ、 食べる行為と同一視

前にも述べたが、動物行動学の観点から言えば、親猫がわが子を食べるようになるのは、子猫が他人に奪われるとり見なしている以上、自分を裏切った復讐として、その子をどうしても渡せないという思惑があっただろう。食べるという行為は、子供(他者)いという思惑があっただろう。食べるという行為は、子供(他者)いという思惑があっただろう。食べるという行為は、子供(他者)な以上、自分を裏切った復讐として、その子をどうしても渡せなる以上、自分を裏切っただろう。食べるという行為は、子供(他者)を母親の体内に取り入れ、自分自身に同化させる行為と推測されを母親の体内に取り入れ、自分自身に同化させる行為と推測される。

フロイトの解釈によると、次のようなものである。フロイトによって提出された概念には同一視というものがあり

たいする感情結合の根源的な形式であり、第二に、退行の道を次のように要約することができよう。第一に、同一視は対象にわれわれは、この三つの源泉から汲みあげて学んだことを、

点のあるたびごとに、生じうることである。(注一四) 視は性的衝動の対象ではない他人との、 って、リビドー的対象結合の代用物になること、第三に、 同 一視は、 いわば対象を自我へ取り入れることによ あらたにみつけた共通 同

について、二つの段階に分かれることを述べている。 関係な死』を素材として―」において、同一化 岡努は「自己愛的同一化と死のイメージについて ―安部公房『無 見出し、その点において典型的な同一視が形成される。また、松 ようとしているという自身と同じ状態に置かれるという類似点を 全なる他者となる。主体の自我が、 ていることが容易に読み取れる。胎児が母体から出る瞬間に、 この三つの特徴を踏まえると、 F 胎児に、 ・Bが胎児を自身と同 Kによって利用され (同一視) の概念 視し 完

形態が考えられる。そのため、 が 自 内在化という用語で取りまとめるなどといった概念上の工夫が 程度に応じて、のみこみ(体内化)、取り入れという用語を別立 を明確にしようとしたり、同一化以前の自我境界のあいまいな れと対比する形で後者を二次的同一化と呼ぶことで両者の差異 なされてきた。(注一五) てにして、のみこみ・取り入れ・同一化の三つを包括している 確立された上で取り入れられるようになるまで、さまざまな 他 外側にあるものを自分の内側に持ちこむという心理的操作は の区別が不分明である発達初期からはじまり、 前者を一次的同一化と呼び、そ 自他の区別

> そして、 によって同化し、またそのようにして対象を亡ぼしてしまう。食 である。 とあるように、フロイトは食人種の食人という行為を同一視とし、 人種がこの立場にとどまっていることは知られている」(注一六) の流れを汲んでいるのであって、欲望と尊重の対象を食べること って、それは温情の表現にもなれば、排除の願望にもなりうるの の三つを包括している内在化という用語で取りまとめている。 わち二次的同一化になるまで、さまざまな形態があるとされる。 達初期とし、 同 次的同一 主体と他者との区別が分明であるかどうかによって、同一化は また、フロイトは同一視を論じる際、食人種にも言及している。 一視は、まさしく最初からアンビヴァレント(両価的)であ 同一視は、リビドー体制の最初の口唇期 (Orale Phase) 同一化に至るまでの過程をのみこみ・取り入れ・同 化と二次的同一化に分かれている。一次的同一化を発 自他の区別が確立された上で取り入れられる、 化

食人種のイメージに繋がる箇所といっても差し支えないであろう。 わが子を食らうことを示唆しているのであろう。また、それらは だ。まるで犬の歯みたいだ」と感激するシーンがあるように、F・ い、F・Bの口の中に手を突っ込んで歯に触ってみて、「すごい歯 を示す。それに、Kが「特別大きな歯をお持ちなんですね」とい 出し合うとき、F・Bが毎食肉を出して欲しいと肉への強い執着 の歯の丈夫さが尋常ではない。肉への執着と歯の丈夫さが後に 「婚約」において、F・BとKが婚約を結ぶにあたって条件を その食人行為を対象を亡ぼすにとどまっていると解釈している。

В

な 【おわりに】

ことになる。その解釈は果たして成り立つのであろうか。F・Bの食べる行為も対象(わが子)を亡ぼすにとどまっているめ、もしF・Bがわが子を食べる行為を食人行為と捉えるならば、がらも、それを対象を亡ぼすにとどまっていると指摘しているたんかし、フロイトは食人種の食人行為を同一視の範疇に入れなしかし、フロイトは食人種の食人行為を同一視の範疇に入れな

swallowing womb of this deep pit, poor Bassanius grave.俺 F・Bの食べる行為もそれと同じと考えられる。 込み、自分自身へと同化させる行為である。その点においては、 連性が指摘されている。そのため、F・Bの食べる行為は「異物」 ろにこの例がみられる」(注一八)とあるように、墓と子宮との関 うかもしれない、バッシアナスの墓穴の中へ (『タイタス·アンド の方がこの深い穴の吸い込むような胎内へ引きずりこまれてしま 宮 womb と墓 tomb との関連」について、I may be plucked into the 容を表す。また再生を願って、もとの状態へ退行することを表す 生することになる。また、「イメージ・シンボル事典」に「墓は変 ある胎児を食べることによって、主体の身体に還元することにな はわが子が奪われる恐怖、不安によって、もともと身体の一部で を亡ぼすというよりむしろ、身体の一部を体内に取り入れること ロニカス』)」の例が引用され、「D・トマスの詩には、いたるとこ (墓 tomb は子宮 womb と関連する)」(注一七)とあり、また「子 食人は食べることによって、犠牲者のエネルギーを体内に取り それは単純に亡ぼす行為にとどまらず、身体の一部として再 死と再生が循環すると解釈できるのではないか。 しかし、 F B

> から影響を受けたと考えられる。 「食べる」行為の意味について考察してみた。造形の由来のい や「食べる」行為の意味について考察してみた。造形の由来のい や「食べる」行為の意味について考察してみた。造形の由来のい がら影響を受けたと考えられる。おから影響を受けたと考えられる。から影響を受けたと考えられる。

下・Bは当初子を食べるのを猫とした。なぜかというと、女性 いた混合型の攻撃と考えられるのが妥当であろう。 がた混合型の攻撃と考えられるのが妥当であろう。 がた混合型の攻撃と考えられるのが妥当であろう。 がた混合型の攻撃と考えられるのが妥当であろう。 がた混合型の攻撃と考えられるのが妥当であろう。 がた混合型の攻撃と考えられるのが妥当であろう。

入れることによって、死と再生が循環すると解釈できるのではなとがうよりむしろ、もともと身体の一部である胎児を体内に取りた、その点において典型的な同一視が形成される。食べるというとうによって、胎児を母親の体内に取り入れ、自分自身に同化さし、その点において典型的な同一視が形成される。食べるというとうとう。主体の自我が、胎児に、Kによって利用されようというよりむしろ、もともと身体の一部である胎児を体内に取り入れ、自分自身に同化さいうよりむしろ、もともと身体の一部である胎児を体内に取りたが、治療と同一化の過程を辿っている係というよりむしろ、もともと身体の一部である胎児を体内に取りた。

注

ス 一九八三年一〇月

○月)所収のものによる。品1 パルタイ・雑人撲滅週間』(新潮社、一九七五年一注二 本稿における「婚約」の引用はすべて『倉橋由美子全作れへ』講談社 一九七○年三月 二九頁 二九頁

一視され、しばしば老人の姿で表現される。注三 クロノスはローマ神話の農耕神であるサトゥルヌスと同

三年七月)を参照)
三年七月)を参照)
三年七月)を参照)
三年七月)を参照的に描いたものだともいわれている。(吉田敦まりを象徴的に描いたものだともいわれている。(吉田敦まりを象徴的に描いたものだともいわれている。この
まりを象徴的に描いたものだともいわれている。この
二年七月)を参照)
三年七月)を参照)

注七 ウィリアム・シェイクスピア『シェイクスピア全集 タ切りとられたのはピローメーラとする一説もある。 注六 前掲注四『ギリシア神話 新版』二四二頁。また、舌が

―」『古典文藝論叢』一号 二〇〇八年三月 一五頁注八 田村正彦「続・子を食らう餓鬼―図像の流布とその背景

一六五頁

注一○ ジャン=ポール・クレベール『動物シンボル事典』竹内一郎ほか訳 大修館書店 一九八四年三月 一一○頁注九 アト・ド・フリース『イメージ・シンボル事典』山下主

信夫、西村哲一、アランロシェ、柳谷巖、瀬戸直彦訳 大一〇 ジャン=ポール・クレベール『動物シンボル事典』竹内

修館書店 一九八九年一〇月 二六三頁

日本放送出版業界 二〇〇六年五月 一九二頁物感覚 アニマル・マインドを読み解く』中尾ユカリ訳一 テンプル・グランディン キャサリン・ジョンソン『動

注一二 前掲注一一『動物感覚 アニマル・マインドを読み解く』

九五頁

注一四 フロイド『自我論』井村恒郎訳 日本教文社 一九七〇一九七頁 前掲注一一『動物感覚 アニマル・マインドを読み解く』

公房『無関係の死』を素材として―」『駒沢女子大学研究注一五 松岡努「自己愛的同一化と死のイメージについて――安部年五月 一三七頁

注一六 前掲注一四『自我論』一三四頁

紀要』一七号

二〇一〇年一二月

二四五頁

注一八 前掲注九『イメージ・シンボル事典』六九七頁注一七 前掲注九『イメージ・シンボル事典』六四四頁